

エフナ
FNA (アジア開発銀行福岡NGOフォーラム)

ニューズレター 2011年5月号 No. 26

OPEN オープン・アカウント
ACCOUNT



報告 ODA 政策協議会

原 征治 (FNA、ODA 改革ネットワーク九州)

2010 年度の ODA 政策協議会の報告をしたいと思います。

ODA 政策協議会について

ODA 政策協議会、というのは NGO と外務省との連携強化や対話の促進を目的として、ODA の情報提供や NGO 支援の改善策などに関して定期的に意見交換する場として設けられました。2002 年度より全体会議に加え小委員会を設立しました。(援助効果に関する意見交換会、円借款迅速化に関する分科会)

協議会は 1) ODA 政策協議会 2) 連携推進委員会がそれぞれ年に 3 回開催され、その他全体会が 1 回開催されます。政策協議では主に政策について、連携では外務省と NGO の連携について協議され、その議事は原則逐語で HP にアップされます。政策協議会の事務局は昨年まで関西 NGO 協議会が担っていましたが、今年度からは ODA 改革ネットが事務局を担っています。また、全国に外務省と NGO とのコーディネーターが 7 人、これは任期一年で公募制となっています。ちなみに参加は自由ですが、交通費その他はすべて自己負担しなければなりません。開催は原則第 1 回と第 3 回が東京、第 2 回は東京以外で開催されるようになっていきます。過去、名古屋、大阪、京都、神戸、そして福岡でも 2 回開催されています。また、イラク戦争における ODA の問題やミャンマーの人権問題、アフガンの復興支援、ODA 大綱の見直し、TICAD、MDGs と幅広い問題を協議しています。ただ、2 時間という限られた時間の中ではどうしても消化不良であったり、未消化のまま終わってしまうこともありました。

この協議会の中で政策協議会に 1 年間参加した報告です。

今回、一年を通じて大きな論点となったのは「ODA の見直し」でした。2010 年初頭に岡田外務大臣(当時)が 300 日プランとして外務省に対して ODA の見直しを指示したのですが、その後 2 月にはより「具体的な ODA のありかた検討」として指示をされています。3 月の 09 年度第 3 回協議会の場合でも「ODA のあり方の見直し」についてとして議題になっています。(ちなみにこの協議会から政務三役が協議会に参加するようになりました。) そのときには NGO 側からプロセスも含めた提案をおこないました。

その後、この見直しに対してはいくつかの NGO が提案をしていますが、臨時全体会(見直しに関して臨時で準備されました)を経て、全体会で最終取りまとめ案についてかなり白熱した議論が交わされました。また、内容も多岐に渡り、今後の中期政策、大綱、また援

助に関するネガティブリストの作成や MDGs 達成に関する質問、ODA 広報（見える化）など幅広い意見の交換が行なわれました。

しかし、そのプロセスにおいて実は最終取りまとめ（案）を外務省が提示してきたのは全体会 2 日前であったこと、多少強引にその案を全体会で説明し、最終案としようとしたことから複数の NGO から異論が噴出。岡田大臣が外務省に問い合わせる場面もありましたが、やり取りの結果、1 週間の猶予にてさらなる意見募集をかけ、最終案を外務省が発表することでなんとか折り合いが付きましました。が、NGO としてはその後においても積極的な提案、この案が最終ではなく、これからが発端だと言質をとった上での折り合いということで全体会は散会。

といっても、1 週間といった短い期間の中でなかなか意見を出せた団体は少なかったように思います。実際、出た意見というものもきちんと公表するように要求していたのですが（これも要約でだしてきたので、話し合いの結果後日マトリックスで出してもらいました）そんなに多くはありませんでした。福岡からも出せればよかったのですが、なかなか難しいですね。

その後、7 月には第 1 回 ODA 政策協議会開催。ここでもやはり「ODA のあり方見直し最終とりまとめに対する NGO 提言に関する説明」が大きな議題（もうひとつは ODA による農業支援を有機農業中心とする提言）でした。特に FoE と JACSES からでているネガティブリストを中心に議論が進みました。

ネガティブリストとは、簡単に言えば「援助をしない」基準を作るということです。すなわち、人間の安全保障を損なわないよう社会・環境影響が回避困難な高リスク案件、紛争助長につながる案件、民主化や基本的人権に否定的な影響がありうる案件、軍の関与がなければ実施が困難な事業などについては原則実施しないということを求めている、実際に 15 案件の具体的な評価をしめしリスト作成、過去の案件レビューなどを求めました。ただ、これに関しては大綱の原則云々…と曖昧な言い回しに終始。結局議論させていただいて…という形で逃げられてしまった感じです。また、ODA 適正会議（これについては 23 年の 2 月にて会議が別個もたれました）について、第 3 者の関与、公開性・透明性といったところが議論となりました。公開性というところでは外務省は過度な反応で、議事進行を妨げる人物が出てきたら困る、という言い回しに終始していました。

一方で、局長が最近提案している開発協力フォーラムなどに関しては関西、九州などで積極的にやりたいと以前から提案があり、地方との対話を強調される場面もありました。いづれにしても、ODA の見直し、適正会議、そして大綱と ODA を巡る動きは多く、そのスピードに対してきちんと公開性と透明性、対話を担保する必要があります。

（編者より：以下の外務省ウェブサイト情報が掲載されています。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/taiwa/kyougikai.html

福岡オルターナティブ研究会について

昨年、「社会変革のための自由な議論の場としての知的サロン（研究会というか、学習会というか、そのような場）を作ろう」という FNA の吾郷代表の呼びかけで、「福岡オルターナティブ研究会」が発足しました。この研究会主催の志民社会学習会がこれまで 3 回開催されました。以下に報告します。

なお、福岡オルターナティブ研究会は FNA の一部会となっており、くるんて〜ぶの会のご協力もいただいています。

第 1 回 志民社会学習会

日時：2010年9月4日（土）、午後2～5時

場所：こくさいひろば交流室（アクロス福岡3階、県国際交流センター内）

テーマ：連帯経済の現状と展望

講師：広田裕之氏

連帯経済や地域通貨の研究で世界的に活躍、日本での第 1 人者。以下、広田さんのブログアドレスと当日の報告内容の簡単な紹介です。

OLCCJP: <http://www.olccjp.net> Blog: <http://mig76en.wordpress.com/>

「現行の資本主義そのものに対する根源的な疑問を突きつけた上で、現在のように政財界が管理する経済ではなく、市民社会が直接運営してゆくような連帯経済をどのようにすれば構築できるかについて、できるだけ具体的な形で考えてゆくという内容です。理論や各国の事例紹介もちろん行いますが、日本の文脈に沿った形でどのように展開できるか、あるいは既存のネットワークを活用して何ができるかを考えてゆくことができれば幸いです。」

学習会報告（吾郷健二）

講師に広田裕之氏を迎えての第 1 回福岡オルターナティブ研究会は、主催者の予想を超える 30 名の参加を得て、盛会のうちに終了しました。3 時間という短い時間の中で、連帯経済という資本主義経済のオルターナティブの全体像について、世界的な背景から、具体例まで含めて、簡潔にお話していただきました。提案としては、連帯経済関係者（生産／消費協同組合、地域通貨、フェアトレード、NPO バンク、社会的企業など）の各分野の枠を超えた交流とネットワークの形成の必要が特に日本に関して強調されました。

私（吾郷健二）個人としては、特にビデオを使ったアルゼンチンの具体例の紹介（NHK

のビデオ：アルゼンチンの「回復工場」が印象に残りました。2001年末の経済危機によって倒産した企業の労働者が自分たちで自主的に工場を再建する（「労働者による工場奪還運動」）の事例で、昔風に言えば、労働者自主管理企業の典型的な1事例（ヒエラルキーも賃金差別もなくすアナルコ・サンディカリズム的事例）です。アルゼンチンの場合、収用法の制定によって現行体制下で法的に認められたので、警察や旧経営者（資本家）も弾圧できず、見事に、労働者による工場の自主管理と様々な分野（クリーニング業、病院、鉄工場、ガソリンスタンド、電気工事業など）でのそれらの自主管理企業の連帯／相互の助け合いが機能しているという印象的な事例でした。

時間の制約、参加者の多さ、主催側の不手際（報告者との打ち合わせの欠如、司会のまずさ、パソコンの故障など）などもあり、必ずしも、討論が十分ではありませんでしたが、それでもかなりの人数の方の積極的な発言があり、第1回としては盛会であったと考えています。特に、福岡や北部九州の地で各分野（労働運動、NPOバンク、マイクロクレジット、食育運動、反原発、市政、住民運動、環境、NGOなど）で活躍されている方々が多く参加し、発言してくださいました。厚くお礼申し上げます。

第2回志民社会学習会

「何故、オルターナティブか？～資本主義を超えてオルターナティブを探求する」

日時：2010年12月4日（土）、午後2～5時

場所：こくさいひろば交流室（アクロス福岡3階、福岡県国際交流センター内）

テーマ：オルターナティブとは何か？

講師：吾郷健二氏（西南学院大学名誉教授）

西南学院大学で長年、世界経済論、発展途上国経済論を講義。今春定年退職。

著書に「第三世界論への視座」（世界書院、1988年）、「グローバリゼーションと発展途上国」（コモンズ、2003年）、「農産物貿易自由化で発展途上国はどうかー地獄へ向かう競争」（明石書店、2010年）、「現代経済学」（共編著、岩波書店、2008年）その他がある。

「第1回の広田氏の連帯経済の問題提起を受けて、現行の資本主義経済に取って代わるオルターナティブな社会経済の全体像を描いてみたい。市場原理主義の歴史的生成と破綻を概観した後、ポスト新自由主義の新たな社会経済像を展望するなかに、連帯経済を位置づける。

狭義のオルターナティブと広義のオルターナティブを区別し、資本主義でも社会主義でもない、現在の産業社会に取って代わる新たな経済社会像のイメージを提起してみたい。」

学習会報告（吾郷健二）

第2回福岡オルターナティブ研究会は、去る12月4日に15名の参加を得て、無事終了しました。報告者は私で、「何故、オルターナティブか—資本主義を超えてオルターナティブを探求する—」と題して、市場原理主義＝新古典派新自由主義の歴史的な位置づけを行ない、ポスト新自由主義の展望を試みてみました。あわせて、我々がめざすべき新たな経済社会の全体像のイメージを提起することで、研究会の趣旨説明と今後の研究テーマの提示も行ないました。当日の司会をしてくださった申東愛さん（北九州市立大学准教授）が概略の様子をまとめてくださいましたので、以下に転記します。

「グローバル化の進展やマネーゲームによる新自由主義的な資本主義が行き詰まり、世界各地において、貧困の増加と経済格差そして財政危機などの社会経済的な問題が広がっている。この行き詰まりは、人間中心の近代西洋文明や産業革命以来の大量生産システム、そして1980年代以降の金融自由化による金融危機と経済不安定に起因すると言うことができる。このなかで、今回のお話では、疾走してきた金融自由化の問題が資本主義の有する矛盾から生じるものとし、ポスト新自由主義の展望についても言及された。新たな経済社会を目指すためには、『自然の原理から社会の原理へ、そして社会の原理から経済の原理へ』という秩序の取戻しが重要であると強調された。

討論会では、多くの方が参加し、『主権在民』という基本理念に立った市民社会と政府の役割、世界危機に対する先進国と途上国の見方や対応策の違い、グローバル化のあり方、そして資本主義や労働、貨幣の意味とそのあり方について、活発な議論が行われた。また、互酬性の原理に基づく「共」的な諸活動として、地域通貨、脱成長への転換、政治的な意思決定への市民参加、連帯経済の必要性などについて議論された。」

第3回志民社会学習会

「市民の政治参加の新たな形態を求めて」

連帯経済（第一回）、オルターナティブの探求（第2回）と主に経済システムに関するテーマを取り上げて来た研究会の次回第3回は政治に関するテーマを取り上げる。講師に篠藤明德さん（別府大学文学部教授）を迎えて、政策決定への市民参加の問題をお話しいただきます。ドイツで実施されている新たな市民の政治参加の手法について、経験に即した詳しいお話をお伺いし、ラテンアメリカで実施されている参加型予算決定や参加型民主主義との比較や日本における新たな民主主義の可能性などについて議論できれば、と思います。

日時：2011年3月26日（土）、午後2～5時

場所：あすみんセミナールーム

テーマ：「新しい民主主義の回路－プラーヌクスツェレと市民討議会－」

講師：篠藤明德氏（別府大学文学部教授）

ドイツで16年間生活。滞独時代にプラーヌクスツェレ（PZ）の考案者ペーターC. ディーネル教授に師事。2005年以降、日本版プラーヌクスツェレといわれる市民討議会の普及に関わる。現在、別府大学地域社会研究センター所長、日本プラーヌクスツェレ研究会代表を務める。テーマに関連する著書は、「まちづくりと新しい市民参加－ドイツのプラーヌクスツェレの手法」（篠藤著、イマジン出版、2006年）、「自治を拓く市民討議会－広がる参画・事例と手法－」（篠藤他著、イマジン出版、2009年）。

講演概要：現在、代表性民主主義、公務員制度に対し各国で批判が高まっている。また、集計民主主義を批判する討議（熟議）民主主義がしばしば語られるようになって来た。講演では、その概況を述べながら、私が日本に紹介したPZ手法についてまず説明する。PZは、住民台帳から無作為に抽出市民による公共政策の立案手法であるが、ミニ・パブリックスとして、討議（熟議）デモクラシーの一手法として注目されている。次に、その日本版といわれる市民討議会の手法と実施状況を述べ、その意義や課題について論じたい。その中で、民主主義の新しい可能性について議論できればと考えている。

学習会報告（楠原圭子）

FNA（エフナ）は、福岡オルターナティブ研究会、くるんて～ぶの会と共催で、現代の様々な問題を自由に論議する場として「志民社会学習会」を開催しています。3月26日の第3回では講師に篠藤明德さん（別府大学教授）を迎え、「市民の政治参加～その新たな形を求めて」と題してお話を伺いました。（参加16名）

プラーヌクスツェレ、耳慣れない言葉ですが、無作為抽出された市民が具体的課題を討議し答申を作成する手法で、1970年代にドイツで考案され、これまで400件以上の事例があります。これが日本仕様にアレンジされ、市民討議会として三鷹市や静岡市など全国で150件以上行われているそうです。市民が行政に直接関わる場として住民投票がありますが、一方通行の投票と違い、こちらは一般の市民が少人数でよく話し合うものです。篠藤先生は、語ることの喜びが実践の力となる、と言われていました。制度として確立しているドイツと異なり日本ではいろいろと問題もあるようですが、既存の政治制度を改善する方法のひとつとして期待したいと思います。

次回の学習会は7月23日、テーマは「もやいバンク」の予定。詳細は後日お知らせします。みなさまのご参加お待ちしております。

イベントご報告

下記のイベントに参加・ブース出展しました。
みなさまのご参加・ご協力 ほんとうにありがとうございました！

10月10日（日）ハートフルフェスタ福岡 2010（会場：福岡市役所前広場）

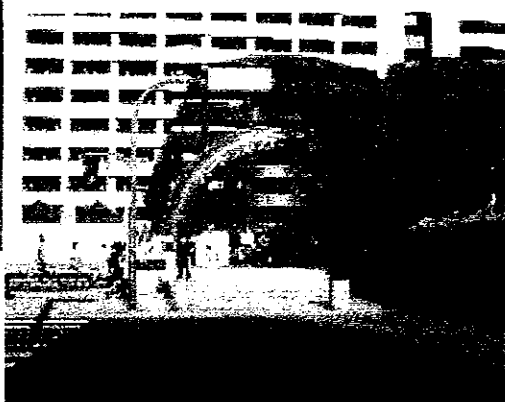
11月5日（金）～7日（日）アミカス記念祭 2010

（会場：福岡市男女共同参画センター・アミカス）

11月6日（土）～7日（日）地球市民どんたく 2010

（会場：アクロス福岡 2階ギャラリー）

11月29日（日）あすばるフォーラム（会場：クローバープラザ）



がいしつらふいしがいしつらふいし 学習会ご報告 がいしつらふいしがいしつらふいし

7月3日 「東北タイの公害と貧困を考える」 会場：びおとーぶ

講師 パンペン・チャイヤラック (エウ) さん

タイ・シラパコン大学環境人類学修士課程在籍。

日本財団 API フェローとして、2010年3月から日本に滞在し、水俣、土呂久、足尾、五木村などで産業公害や水管理問題と日本の住民運動について調査を行った。

内容：東北タイはタイ国内でもっとも貧しい地域と言われているが、最近では豊富な地下資源、特に岩塩とカリウムを採掘する事業が進められている。またメコン河流域開発計画と関係する導水・導電事業は農業振興のためではなく、東北タイの工業化のためのインフラ整備である。今、急激な開発に伴う環境破壊が懸念されている。この計画には多くの外国企業が関わっているが、外国企業がタイの環境や人々の生活を守る配慮をするのか、不安が高まっている。



9月7日 「タイ・マプタプット工業団地、環境被害と76事業停止命令の波紋」

会場：びおとーぶ

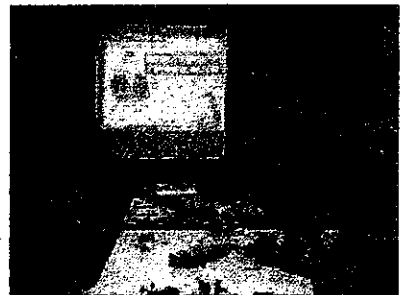
講師 土井利幸さん (FNA 副代表)

内容：日本政府がODAを投入して整備したタイ東部マプタプット石油化学工業団地では1990年代末に大気・水の汚染や有毒廃棄物の不法投棄が社会問題化したが、その後10年以上、現地住民による様々な働きかけにもかかわらず、問題解決はすすまなかった。

ところが2009年9月、タイの行政裁判所が、マプタプットと周辺地域の76件の新規事業に対して、「憲法67条第2項に定めた、環境影響評価や健康影響評価の実施などの手続きをふんでいなかった」という理由で、一時差止めの判決を下した。

「マプタプット」はタイの中でふたたび社会問題化し、現在、差止めされた事業の再開ばかりでなく、マプタプットの将来の街づくりや環境基準の改善などに向けて、現地住民をはじめ各方面を巻き込んだ取組みが行われている。

日本政府の関係機関や日系企業はタイ政府に早期の事業再開を求めていると言われているが、住民は日本で公害問題に取り組んでいる団体・研究機関と共に調査を行うなど、現在もせめぎ合いが続いている。



まず、ニューズレター「オープン アカウント」第 26 号の発行が大変遅くなりましたこととお詫び申し上げます。前号より 1 年以上経っての発行となってしまう、大変申し訳ございません。

今回の大震災につきまして、いまだ平穏を取り戻すことができない方がたくさんおられることがとてもいたましく思われます。原発の問題もさらに混迷を深めている現状の中、直接には震災の影響を受けていない福岡にあって、市民活動に取り組む者としてなにができるのでしょうか。これから、被害を受けられた方々の支えとなるような活動も探っていければと思っています。

FNA (エフナ、アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム)
とは.....

アジア開発銀行 (ADB) などによって行われる開発をモニタリングし、政策提言を行う NGO です。

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は下記へどうぞ。

〒810-0041 福岡市中央区大名 2-6-46 福岡市立青年センター5階
福岡市 NPO・ボランティア交流センター (愛称あすみん) 気付

連絡ボックス No.24 FNA 行

(郵便物には必ず「連絡ボックス No.24」を明記してください)

電話・ファクス：092-920-1873

(電話は留守番電話になっています。ご用件を録音してください)

Eメール fna@minos.ocn.ne.jp

URL <http://fna.nngo.jp/>

* **会員募集中!** 年会費 (1 口)・正会員 5000 円

学生会員 3000 円・購読会員 2000 円

入会を希望される方はお名前・住所・連絡先 (電話・ファクス・Eメールアドレスなど) を事務局にご連絡ください。FNA の郵便振替用紙をご利用いただくと手数料は無料です。